

第78回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について (平成10年2月～5月)

1. 主な火山活動

- ・岩手山：平成7年（1995年）の9月15日から火山性微動や山体およびその周辺を震源とする微小な地震が発生し、昨年12月末から山体西側で浅い地震の発生が目立つようになった。東北大学や国土地理院のGPSの観測によれば、2月に入り火山の周辺では、地殻の南北方向の伸張が始まったと見られる。3月に入り東北大学の傾斜計や体積歪計に、顕著な地殻変動が認められるようになり、3月19日には日地震回数が90回と急増した。4月29日には15時頃から有感となる地震がはじめて観測されるなど地震活動が活発化し、日地震回数は285回と急増した。4月29日以降の地震活動はそれ以前に比較して地震回数が増加するとともに、M2.0以上の規模の大きな地震が発生するようになった。そして、しばしば有感となる地震が発生し、5月7日にはM3.3の地震を観測した。これらの浅部地震活動とは別に、岩手山の周辺ではモホ面近傍の深さ30km付近で発生する低周波の地震がしばしば観測されていたが、4月末以降その回数が増加している。大地獄谷等の地熱噴気活動にも若干活発化の傾向が認められる。また岩手山のGPS観測による地殻の南北方向の伸張は、これまで約4cmに達している。

これらの状況は、マグマの活動に起因した、岩手山の火山活動の活発化を示すものと考えられる。活動がさらに活発化する可能性もあることから、今後の推移については、注意が必要である。

- ・安達太良山：一昨年から地熱、噴気の活動の活発化が認められるようになった沼ノ平周辺では、本年4、5月の現地観測でも引き続き、泥の噴出、噴気、地熱地帯の拡大を観測した。
- ・伊豆東部火山郡：4月20日から川奈崎沖で群発地震活動が始まった。この活動に伴い、周辺でのGPS観測、体積歪計、3成分歪計および傾斜計等の地殻変動データに変化が観測された。最大地震は5月3日に発生したM5.7で、日地震回数の最多は4月22日の1687回、有感地震回数は211回だった。今回は、21日から22日にかけて日回数が1000回を越える活発な活動の山の後、バースト的な活動を繰り返して活動期間が長くなった。また、今回の活動域は、従来の群発地震の活動域の南東寄りに位置した。5月中旬以降活動は低下している。これら一連の活動は地下マグマの活動と関連していると考えられる。
- ・薩摩硫黄島：4月以降山頂部周辺を震源とする地震の発生回数が多い状態が続いている。4月下旬から5月初めにかけて、島内でわずかな降灰が観測されている。

2. 北海道地方

- ・十勝岳：2月7日、15日および5月2日に振幅の小さな火山性微動を観測した。
- ・樽前山：3月以降、火山性地震がたびたび多発した。4月30日から5月1日にかけての活動が最も活発で、5月1日の日地震回数は66回に達した。

3. 東北地方

- ・吾妻山：3月26日、4月4日および5月12日に振幅の小さい火山性微動を観測した。

4. 関東・中部地方

- ・新湯焼山：昨年10月末頃から噴気量がやや多い状態となり、12月頃までは高度が500mに達する状態が続いた。本年に入り3月以降は噴気の勢いが弱まり、100～200m程度になった。地震回数は2月中旬から下

旬にかけてやや多い状態が続いたが、その後減少している。

- ・富士山：低周波地震を3月24日に19回，5月1日に11回，5月7日に14回観測した。
- ・伊豆大島：地震回数や表面現象に特に変化はない。地殻変動観測によると，島の膨脹傾向が引き続き観測されている。
- ・三宅島：地震回数や表面現象に特に変化はない。地殻変動観測によると，島の膨脹傾向が引き続き観測されている。

5. 九州地方

- ・九重山：日地震回数は5月中旬にやや多かった以外は概ね20回以下で推移した。噴煙高度は概ね100～300mで推移したが，時々500mを越えることがあり，3月2日には800mに達した。
- ・阿蘇山：火口底は前面湯溜まりの状態が続いた。噴湯現象が3月下旬まで月を通して観測され，4月以降も時々観測された。孤立型微動回数は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。
- ・桜島：平成8年（1996年）4月以降火山活動レベルが低い状態が続いていたが，平成9年（1997年）12月下旬以降やや活動レベルが上がった。5月19日から20日にかけて約2年ぶりに顕著な群発地震が発生し，その後噴火活動が活発化，爆発的噴火（爆発）を繰り返している。